



大銀杏

根



城



南部師行公

2020年度 第3号

八戸市立根城中学校 令和2年6月30日発行

跳ね返せ 逆境を 各部の想いを 一つの輪に

各種大会やコンクールの機会を失ったのにもかかわらず前を見て生活している3年生の様子を前号で紹介したところ、多方面から「3年生立派！」の声が届いています。各部長に最後のステージに懸けてきた想い、練習に取り組んでいる今の想いを尋ねました。



最後の夏季大会に向けて「総合優勝」を目標に頑張ってきましたが、大会は中止。悔しい気持ちでいっぱいでしたが、今は後輩との思い出を作ろうと楽しく活動しています。この悔しさをバネにして、これから何事にも全力で当たりたいと思います。体育祭では陸上競技部の本領を発揮し、大活躍したいと思います。(津島陽奈乃)



先輩たちが成し遂げられなかった夏季大会優勝を目標に、チームの仲間と切磋琢磨してきました。夏季大会開催を諦めてはいなかったのに、「中止」と聞いた時は悲しい気持ちでいっぱいでした。しかし、残りの活動期間を全力で取り組むことで後輩たちに残せるものがあると信じ、下を向かずに練習に励んでいます。(齋藤理功)



目標だった「県大会出場」は叶えられなくなりましたが、普段の練習や冬の走りなど、無駄なことは一つもなかったと思います。これまで続けてこられたのは、顧問の先生方やコーチ、保護者の方々、そして、今まで一緒に戦ってくれた後輩たちがいたからです。残されたのは練習試合のみですが、感謝の気持ちを届けられるように全力でプレーしたいと思います。(福田遥斗・宮下大和)



県大会出場という目標をもって最後の大会に臨むはずでしたが、中止になってとても悔しいです。しかし、7月には練習試合が控えています。そこで満足のいく結果を出せるよう、最後の最後まで全力で頑張ります。(大國翔也)



ご指導くださった先生方が転勤してしまい、夏季大会への想いは更に強くなりました。いろいろな大会がなくなってしまったので、先生方に良い報告ができなくなり、とても落胆しました。しかし、後輩たちには私たちのような経験してほしいのではないので、残せることは全て伝えて引退したいと思います。(越田彩葉)



入部したばかりの1年生や今まで一緒に頑張ってきた2年生に、3年生の目標だった県大会優勝の姿を見せたかったと思います。後輩たちには是非叶えてもらいたかったので、日々の練習から努力を続けてほしいと思います。(中里羽汰)



活動中は「楽しい面白い」と思っているけど、片付けの時や帰宅後は虚無感に襲われます。最後の夏季大会。大館中相手に大暴れしてやる、たくさんの応援団の前で優勝したい、今度こそは…と思っていたので、毎日悔しさをいっぱいです。1、2年生には私たちの代わりにカップを持ち帰ってほしいと思います。(田高希望)



春季大会に向けて「今度こそは1勝！」という想いで練習してきました。夏季大会ではこれまでの練習の成果を出し切り、最高のプレーをしたいと考えていましたが、大会自体がなくなり、悔しさと悲しさでいっぱいでした。しかし、練習試合はできるということで、自分やチームが練習で身に付けてきたことを出し切れればいいなと思います。仲間や後輩たちと練習できる時間を大切に、バレーの楽しさをたくさん教えていきたいと思っています。(大川優羽)



中学生最後の大会に向けて、みんなと積み重ねてきたものを全て出し切りたいという強い想いがありました。大会は中止になったけれど、バスケットを楽しんで練習しています。練習は自分のためにやってきたけれど、今は1、2年生に対して、一生懸命に練習することが大切だということを僕たちの姿から感じ取ってもらえるように頑張っています。(中村勇誠)



「最後こそ絶対に勝つ！」という目標を達成できずに大会が終わってしまいました。春季大会ができなかった私たちにとって、夏季大会は想像以上に大きいものでした。大会のために日々一生懸命頑張ってきた仲間、特に3年生のことを考えると悔しくてたまりませんでした。今3年生を見ると、すごく楽しそうな笑顔で練習しています。大会がなくなり目指すところがなくなったけれど、大好きな仲間と共に大好きなバスケットができて、私はとても幸せです。(五日市朱愛)



最後の夏季大会に向けて日々練習をしてきましたが、中止になり様々な気持ちがこみ上げてきました。今は新しい練習やトレーニングを取り入れるなど、工夫をして前向きに取り組んでいます。7月には練習試合を控えているので、いい形でのゴールを迎えられるように頑張ります。(伊藤大輔)



大会がないと知った時は、本当にショックで何一つ言葉が出ませんでした。それまでは「諦めず全力で戦い、最後は笑顔で終わる」というのが目標でした。どの部も大会に懸けてきた想いは同じはずです。だから、それが叶わないとわかった今は、練習試合に向けて1秒1秒を大事にしています。悔いの残らないように精一杯頑張ります。(田口綺華)



八戸でレッスンを受けられるのは、平日1時間半で貸切2回です。練習が再開した今は、3か月ほど前の力を取り戻すのに精一杯だということが悔しいです。ただ、みんなが同じ状況だと考えると、新型コロナウイルスのせいにはしたくないと思い始めています。限られた時間でも滑れることに感謝して、今できることに精一杯取り組みます。大会ができるという可能性が少しでもあるならば、信じて練習するだけです。最後の大会を笑顔で終えたいと思っています。(小泉乃々)



ベスト記録更新することを目標にクラブで練習をしてきました。全国大会までもう一歩だった人もいます。大会はなくなってしまったけれど、引退までの期間は「負けない！」という想いをもち続け、練習に全力で取り組みます。(菊地凜) 裏へ→



私たちは冬季のスポーツですが、全員が陸上部も兼ねているので、夏季の部の人たちの気持ちもわかります。冬季のことを考えると複雑な心情です。まだしっかりとした自覚はありませんが、夏のトレーニングを頑張っ、シーズンが始まる時には、大会ができなかった人たちに心から応援してもらえるように、夏の練習からベストを尽くしたいと思います。(根城理実)



夏の部に所属している人は悔しい思いをしているはずですが。もしも冬の大会がなくなったら、僕たちは相当ショックを受けると思います。しかし、夏の部の人たちは誰も態度に出していません。最後の舞台を失った人たちとは思えないくらい立派です。冬の大会が予定どおり行われたら、夏の部の分まで頑張ります。(高崎誠大)



3年生は昨年一昨年「あと一歩で全国大会だったのに…」という悔しい思いをしてきました。そのため「今年こそは」という気持ちで頑張ってきました。コロナの影響で、せっかくつかんだ全国大会への切符は消え、Nコンも全日本もなくなってしまいましたが、私たちはその辛さをバネに「絶対に文化祭を成功させる！」という想いで、これからも日々の練習を頑張ります。(八重垣麗)



3年生は「今年のコンクールは県で金賞を獲ろう！」という想いで、いろいろなことを乗り越えてきました。しかし、地区大会は中止。覚悟はしていたものの、いざ現実となるとこみ上げてくるものがありました。今まで本気で取り組んできたからこそ悔しさは大きいものでした。しかし今は、新しく入った1年生に教えながら、文化祭に向けて少しずつ前進しています。コンクールはなくなったけれど、練習してきたことは絶対に無駄ではありません。私たちの集大成を存分に発揮し、文化祭を大成功させたいと思います。いや、絶対に大成功させます！(石鉢ころ)



活動期間はまだまだあるけれど、何もしなければ残りの約4か月はあっという間に過ぎ去ってしまいます。最後のステージである文化祭に向けて、新しい目標もできました。その目標を達成して、すばらしいゴールを迎えられるように頑張っていきたいと思います。(岩織裕毅)



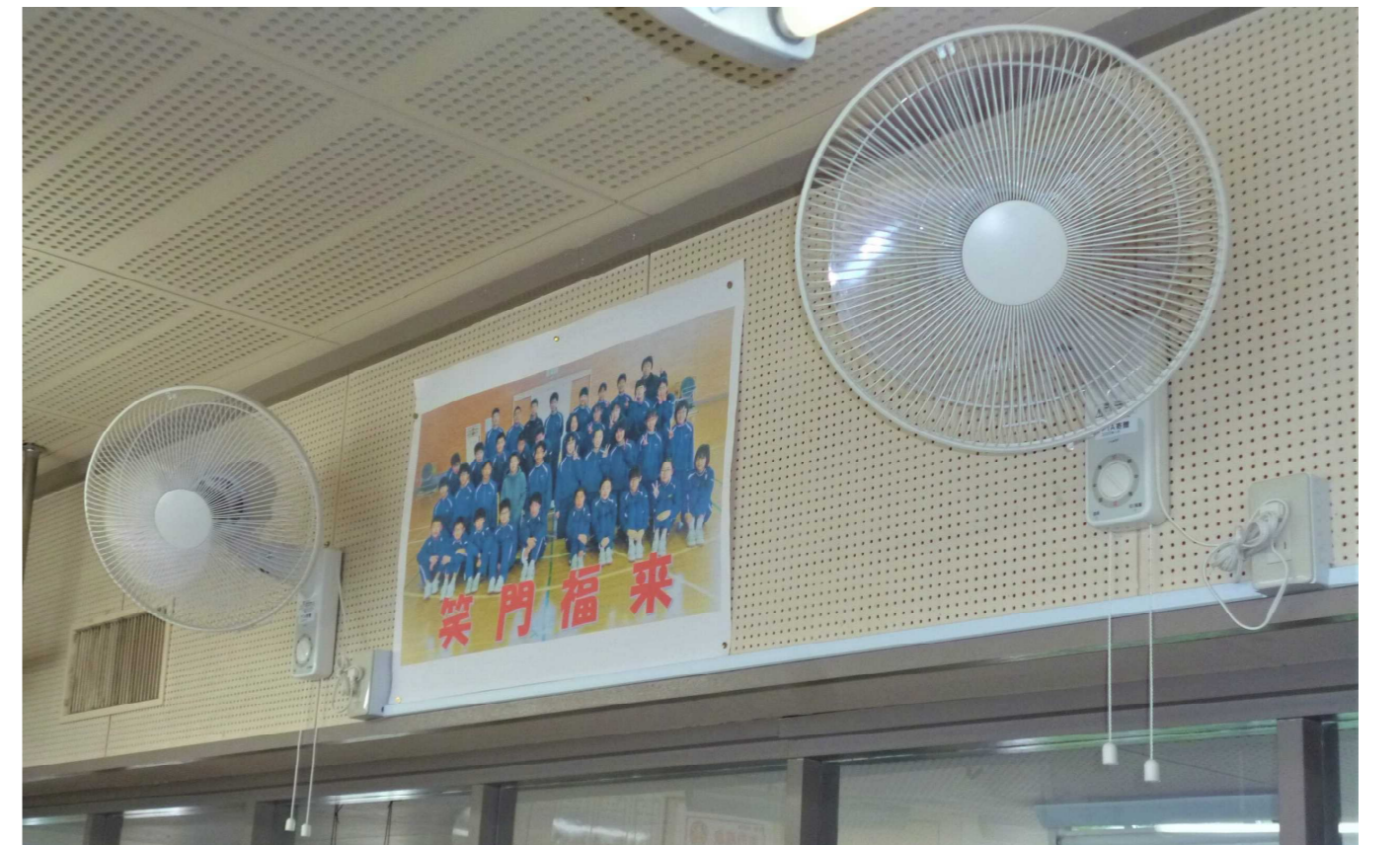
「夏季大会中止」という知らせを耳にした時、私たちは大きなショックを受けました。友達の中には泣き崩れる人もいました。昨年の夏季大会、私は次期部長として「来年は応援団の代表として自分が引っ張っていくんだ！」と強く心に刻んでいました。しかし、その意気込みも水の泡となり、「私たちの代では経験しないまま終わるんだな」と思うと、寂しい気持ちでいっぱいです。運動部の皆さんもきっと同じ思いをしたはずですが、それならせめて、未来に可能性のある後輩に希望を託し、立派に成長してほしいと思いました。いつかコロナウイルスが終息して平和が戻るよう、心から願っています。(畑中百合愛)

運動部も文化部も、大会やコンクールがなくなった部も冬の開催に期待を寄せる部も、もともと大会等の機会がない部も、それぞれの想いを綴っています。各部の代表の想いを一つの輪にして、7月から行われる練習試合や秋の文化祭に向けて、残りの活動時間に全力を注いでほしいと願っています。

感謝～これからも共に～

生徒玄関廊下には、上のタイトルのようなテーマで各部の2年生から3年生へのメッセージが掲示されました。3年生一人一人に対して、これまでの感謝が綴られています。この紙面では見やすく印刷できないため、本校ホームページのブログで紹介しています。

風 風 風 風 風 風 風



これからの気温上昇に備えて、各教室に扇風機を2機設置しました。一般家庭で使用するものに比べ、羽根の直径も風量も大きいので、より快適な教室環境になるはずです。

これまでの文化祭でのバザーや食堂・喫茶の収益金を活用させていただきました。ありがとうございました。